

CentOSの移行先とは？



目次

1. CentOSの移行先問題

1. CentOSの現状
2. CentOSのサポート期間

2. CentOSの移行先4選

1. 移行先一覧
2. Alma Linux
3. Rocky Linux
4. Oracle Linux
5. MIRACLE Linux

3. まとめ

1. CentOSの移行先問題

1. CentOSの現状

CentOS Projectは、2029年5月31日までサポート予定だった「CentOS Linux 8」のサポートを2021年12月31日で終了し、今後は、「CentOS Stream」の開発を進めると発表しました。

サポート期限を見込んでCentOS8に移行していた方や、これから移行を検討していた方は突然のニュースに混乱をしているようです。

CentOSの公式ブログ「[Blog.CentOS.org](https://blog.centos.org)」より抜粋

CentOS Linux 8, as a rebuild of RHEL 8, will end at the end of 2021.

CentOS Stream continues after that date, serving as the upstream (development) branch of Red Hat Enterprise Linux.

(RHEL8のリビルド版であるCentOS8は2021年末に終了します。

「Red Hat Enterprise Linux」の開発ブランチとして提供される「CentOS Stream」を継続します。)

2. CentOS Streamの課題

CentOS ProjectはCentOS Streamへの移行を推奨しておりますが、CentOS Streamには大きな課題があります。

CentOSは、RHELのダウンストリームとして、安定性のあるRHEL互換のOSとされてきました。

この為、CentOSは安定稼働しているRHELに対して商標や商用パッケージの削除や置き換え等を行って構築されるディストリビューションとなります。

一方で、CentOS Streamは、RHELのアップストリームとして位置づけられています。

したがって、完全に検証される前の“ソースパッケージ品質テスト”を行うディストリビューションの側面を持っています。また、更新の際に不具合が発生する可能性もあります。

このような理由から、別のOSへの移行を検討している方が増えております。

2. CentOSの移行先4選

1. 移行先一覧

CentOSの移行先として人気のある4つのOSについて解説していきます。
※RHELとの互換があるOSに限る

製品名	開発元	サポート期間(※)	価格	有償サポート
Alma Linux	Alma Linux OS Foundation	2029年	無償	有
Rocky Linux	Rocky Linux Project	不明	無償	有
Oracle Linux	Oracle America,Inc	2029年	無償	有
MIRACLE Linux	サイバートラスト(株)	2030年	無償	有

※パッケージのアップデートをこの期間メンテナンスすることを指します。

2. Alma Linux



ホスティング事業者やデータセンター向けの有償Linuxディストリビューションである「Cloud Linux OS」を提供しているCloud Linux .incによって開発されたOSです。

Cloud Linux社はすでに10年以上、RHELフォークを開発している経験があり、開発元がノウハウを持っている点が特徴です。

年間100万ドルの予算を投じる方針も明らかにしており、プロジェクトの資本面も盤石であることをアピールしています。

3. Rocky Linux



Rocky Linuxは、CentOSの元開発者が発表したOSです。

Rocky Linuxの公式サイトでは、「不具合も含めてRHELと100%の互換性を持つように設計されていること」「コミュニティ主導で開発されていること」などが明記されています。

互換性は、RHELとバグまで100%一致するように設計されています。

企業主導ではなく、コミュニティ主導なのでオープンで中立的な立場ですが、誕生して間もないプロジェクトであることから開発やサポートの実績が乏しく、以前のcentOSのような運営が続けられるのかという疑問が残ります。

4. Oracle Linux



Oracle社提供のディストリビューションでRHELをリビルドしたものとなります。

Alma LinuxやRocky Linuxとは異なり、リリースしてから期間が経過しているため、信頼性が高いOSと言えます。

しかし利用ユーザーが少ない為、世間的にナレッジが少ないことが懸念点と言えます。

5. MIRACLE Linux



2000年6月から続くLinuxディストリビューション。

日本国内でcentOS Linuxを利用していた、企業ユーザーの移行先として利用できるディストリビューションを目指しています。

国産のディストリビューションなので、日本の商慣習に合わせた有償サポートメニューが強みです。

また、過去にコミュニティが作ったディストリビューションが急遽、プロジェクトが終了した実例があるので、企業が開発している事は安心材料と言えるでしょう。

3.まとめ

1. まとめ

今回は、CentOSのサポート終了に伴い、移行先として検討可能なOSについて紹介をしました。
(※RHELとの互換があるOSに限る)

安定性を重視する上で、移行先のOSはRHELのダウストリームであることは必須だと思います。
その上で、コミュニティ開発なのか？企業開発なのか？やサポート期間などを考慮して移行先を決めていく事をおすすめします。

↓CentOSの移行先でお悩みの方はこちら↓

[お問合せはこちら](#)